おひざのうえで

（副園長の子育ておうえん通信）（2020 年４月）

せんりひじり幼稚園
副園長　　安達かえで

「こんなことを悩んでいます」シリーズ②

お悩み②「子どもの我儘や自己主張・・・どうしたらいい？」

親子で長時間一緒にいると、子どもは自己主張やわがままを一番安心できる親にぶつけてきますよね。こちらも余裕があるときはうまくかわしたり受け止められるのに、余裕がなくなるとぶつかりあってしまいますよね。

今日は、自己主張やがまんについて考えてみましょう。

我慢の力は自分の欲求を表現することから始まるようです。そしていずれはその欲求をコントロールする力へと発達します。テレビでもおなじみの教育学者の汐見稔幸先生のお話にもよく出てきますが、我慢の力を育てるには、2 歳ごろから始まる自己主張を十分にさせてあげることが欠かせないそうです。子どもが社会で仕事をしていくためにもしっかりと自己主張する力と、それをコントロールする力の双方を育てていくことが必要です。

我慢は、大人のいうことを聞いて自分の欲求をあきらめてしまうことではなく、欲求をコントロールすることです。そしてそれは身近な大人によって、欲求を先のばししたり、他の物で代替えしたり、思いを受け止めてもらうことで、コントロールできるようになっていきます。言葉で理解して自分の力でコントロ

ールできるのは４・5 歳ぐらいからでしょうか（時と場合によるけど・・・）。その先の見通しができるようになるからだと思います。

　我慢しにくい場合は、我慢しやすい状況を作ってあげることが必要です。例えば「おやつを食べたい」という子の欲求に、「ダメ！」と言っても、目の前に食べたくなるようなお菓子があると、「食べたい」というのは当然。なので、見えないところに置くか、必要以上は買わないようにするなどの配慮が必要です。「おやつを食べたい」という思いを「長い針がここまで来たら、お菓子の時間にしようか」と先延ばししたり、「美味しいご飯が待っているから、もう少し待っててくれる？」と代替えしたりしながら、子どもは自分の気持ちを受け止められつつ、自己コントロールする練習を重ねていきます。

　ただし、たとえ自己主張であっても、命にかかわる危険なことや、公共の場で、人の迷惑になるような行為をした時は、毅然と、「やめよう。」と正すことが必要です。4 歳 5 歳になっても「逆切れされるとややこしいからそのままにしています。」となると、自己コントロールの力が育たないので、いずれ本人が困ることになるでしょう。信じて受け止めつつも、子どもが育っていく方向の明かりを照らしてあげるという二つのさじ加減を使い分けていくことが大切ですが、いずれにしても親のエネルギーがいります。親も休みが欲しいですよね。

　お悩みや迷いがある方は遠慮なく下記のアドレスまで～。

・・・